

令和４年度 日本学校心理士会千葉支部 総会

日時 令和４年９月１１日（日）１２：４５～１３：３０

オンライン開催

１ 支部長挨拶

２ 議長選出

３ 報告

（１）令和３年度活動報告

（２）令和３年度収支決算報告

（３）令和３年度会計監査報告

４ 議事

（１）令和３年度活動報告及び収支決算報告の承認について

（２）令和４年度活動計画案の承認について

（３）令和４年度予算案の承認について

（４）令和４年度役員の承認について

（５）会則改正について

（６）その他

５ 議長解任

６ 諸連絡

1 令和3年度 活動報告

(1) 令和3年度総会

令和3年9月5日(日) ZOOMによるオンライン開催

(2) 研修会

- ① 令和3年6月20日(日) ZOOMによるオンライン研修 参加者 113 名
研修会名 日本学校教育相談学会千葉県支部 第82回研修会(共催)
講演「子どもとデジタルの関わりを法的観点から考える～ゲーム依存やネットトラブルの予防法～」
講師 Aki 行政書士事務所代表 田中友里氏
- ② 令和3年9月5日(日) ZOOMによるオンライン研修 参加者 122 名
研修会名 日本学校心理士会千葉支部 令和3年度 第1回研修会
(日本学校教育相談学会千葉県支部と共催)
講演「愛着障害と発達障害の理解と支援」
講師 和歌山大学教育学部教授 米澤好史氏
- ③ 令和3年11月28日(日) ZOOMによるオンライン研修 参加者 76 名
研修会名 日本学校心理士会千葉支部 令和3年度 第2回研修会
(日本学校教育相談学会千葉県支部と共催)
講演「敏感な感性をもつ子どもの対応」
講師 NPO 法人千葉こども家庭支援センター理事長 杉本景子氏
- ④ 令和4年1月30日(日) ZOOMによるオンライン研修 参加者 77 名
研修会名 日本学校心理士会千葉支部 令和3年度 第3回研修会
(日本学校教育相談学会千葉県支部と共催)
講演「学びの場の『当たり前』を問い直す」
講師 群馬大学情報学部 教授 結城 恵氏

(3) 委員会活動

- ① 研修委員会
・委員会会議 令和4年3月6日(日) 10:00～12:00 オンライン
- ② 編集委員会
・委員会会議 令和4年6月12日(日) 16:50～17:30 オンライン
- ③ 准学校心理士対応委員会
・第1回準備会 令和4年1月30日(日) 17:30～18:30 オンライン
・第2回準備会 令和4年5月29日(日) 10:00～11:00 オンライン
・第3回委員会 令和4年7月18日(日) 10:00～10:45 オンライン
- ④ 海外交流委員会

2 令和3年度 収支決算報告

1. 収入の部

単位（：円）

項 目	予算額(a)	決算額(b)	差額増減(b-a)	摘 要
1. 繰越金	676,879	676,879	0	
2. 支部費	125,000	138,600	13,600	本部より還付
3. 支部会費	500,000	323,000	-177,000	2,000円×158名 1,000×7名
4. 研修会補助金	50,000	20,000	-30,000	ZOOM補助金
5. 研修会資料代	5,000	2,000	-3,000	1,000円×2名
6. 雑収入	5	15,011	15,006	共催負担金（学校教育相談学会千葉県支部より）、利子
合 計	1,356,884	1,175,490	-181,394	

2. 支出の部

単位（：円）

項 目	予算額(c)	決算額(d)	差額増減(c-d)	摘 要
1. 事務局費	100,000	61,072	38,928	封筒印刷代、ZOOM契約、文具 他
2. 事務局委託料	60,000	60,000	0	さくら教育研究所に委託
3. 研修会運営費	100,000	45,000	55,000	学校教育相談学会研修会共催負担金
4. 通信費	100,000	97,054	2,946	ハガキ代、郵送料
5. 講師謝金	100,000	30,000	70,000	講師料
6. 予備費	896,884	220	896,664	振込手数料
合 計	1,356,884	293,346	1,063,538	

3. 決算の部

収入総計 1,175,490 円
 支出総計 293,346 円
 差引残高 882,144 円 （次年度へ繰り越し）

上記の通り報告いたします。

令和 4 年 4 月 15 日

会 計 浅 見 光 子



監査の結果、適正であることを認めます。

令和 4 年 6 月 19 日

会計監査 島 尾 永 治



会計監査 吉 岡 秀 樹



3 令和4年度活動計画（案）

(1) 令和4年度総会

令和4年9月11日（日） 12：45～ オンライン

(2) 研修・研究

① 千葉支部 令和4年度 第1回研修会（日本学校教育相談学会千葉県支部と共催）

令和4年6月12日（日） オンライン

講演「子どもたちの命を守るために 私たちにできること」

講師 中央大学人文科学研究所 客員研究員 高橋聡美 氏

② 千葉支部 令和4年度 第2回研修会（日本学校教育相談学会千葉県支部と共催）

令和4年9月11日（日） オンライン

講演「こころの病気のある児童生徒等の教育支援について」

講師 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所情報・支援部総括研究員 大崎博史 氏

③ 千葉支部 令和4年度 第3回研修会

令和4年11月13日（日） オンライン

講演「新しい思春期像と対応」

講師：沖縄県 オリーブ山病院 児童思春期精神科 児童精神科医 滝川一廣 氏

④ 千葉支部 令和4年度 第4回研修会（日本学校教育相談学会千葉県支部と共催）

令和5年2月5日（日） 東京情報大学 対面形式（またはハイブリッド）予定

講演 「未定」

講師 千葉大学名誉教授 保坂 亨 氏

⑤ ≪新規≫ 千葉支部 第1回 研究発表会 【別紙資料 P.9 参照】

令和5年2月5日（日） 東京情報大学 対面形式（またはハイブリッド）予定

・千葉支部第4回研修会と同日開催

・日本学校教育相談学会千葉県支部の研究発表会と合同開催予定

⑥ 千葉支部 令和5年度 第1回研修会

令和5年6月11日（日） 千葉市文化センター 対面形式（またはハイブリッド）予定

内容未定（日本学校教育相談学会千葉県支部と共催予定）

(3) ≪新規≫ 研究誌発行 【別紙資料 P.10 参照】

・令和5年6月発行予定

・日本学校教育相談学会千葉県支部と合同発行

(4) 委員会活動

① 研修委員会

② 編集委員会

③ 准学校心理士対応委員会 【別紙資料 P.11 参照】

④ 海外交流委員会

4 令和4年度 予算（案）

1. 収入の部

単位（：円）

項 目	予算額	摘 要
1. 前年度繰越金	882,144	
2. 支部費（本部より）	125,000	本部より500円×250名
3. 千葉支部会員 会費	170,000	千葉支部会員未納分 1,000円×2年分×85名
4. 研修会補助金（本部より）	70,000	Aポイント研修会開催補助金 ZOOM契約補助金
5. 研修会資料代	10,000	支部会員外の参加者より1,000円×10名
6. 研修会共催負担金	30,000	学校教育相談学会千葉県支部より
7. 雑収入	5	預金利子
合 計	1,287,149	

2. 支出の部

単位（：円）

項 目		予算額	摘 要
1．事務局費	通信費	100,000	郵送料・切手 他
	事務局委託費	80,000	さくら教育研究所に委託
	事務局運営費	50,000	ZOOM契約 1 年・印刷委託 他
	事務用品・消耗品費	100,000	印刷機・封筒・コピー用紙・インク 他
2．活動費	会議費	50,000	
	委員会活動費	40,000	
3．研修会運営費	講師料	100,000	
	会場使用料	50,000	
	共催負担金	30,000	
	運営雑費	10,000	
4．研究誌発行費		200,000	研究誌印刷費
5．旅費・交通費		100,000	大会派遣・本部会議旅費 等
6．予備費		377,149	
合 計		1,287,149	

5 令和4年度 役員（案）

令和4年度日本学校心理士会千葉支部役員（案）

※令和3・4年度の2年任期 ※50音順

顧問	三浦香苗 蘭千尋（育英大学）
----	----------------

〔役員〕

役職	氏 名（所 属）	
支 部 長	田邊昭雄（東京情報大学）	
副支部長	青木ゆかり（千葉県総合教育センター）	…編集委員会担当
	伊藤康弘（県立特別支援学校流山高等学園）	…研修委員会担当
	塚本義雄（銚子市立清水小学校）	…准学校心理士対応委員会担当
常任幹事	浅見光子（さくら教育研究所）	荒井明子（秀明大学）
	植草伸之（帝京平成大学）	内田守（柏市教育委員会）
	梅澤由紀子（市川市立国府台小学校）	片桐力（秀明大学）
	小柴孝子（子どものこころ発達教育研究センター）	菅原英一（柏の葉こども園）
	富樫春人（千葉県スクールカウンセラー）	本間洋（成田市立向台小学校）
幹 事	石井幸江（日本体育大学）	石山博幸（東邦大学）
	大木静子（八千代市立勝田台中学校）	門永由美（船橋市南本町子育て支援センター）
	金高美津子（なんそう心理教育研究所）	川島康代（長柄町立日吉小学校）
	桑田美和（県立多古高等学校）	齊藤敦子（県立国府台高等学校）
	高梨智子（千葉県スクールソーシャルワーカー）	高橋かん奈（船橋市東老人福祉センター）
	武富教子（千葉市スクールカウンセラー）	樽木靖夫
	張愛子（小田原短期大学）	長野季子（睦沢町立睦沢小学校）
	福田修一（県立生浜高等学校）	藤田拓哉（県立松戸六実高等学校）
	藤原和政（兵庫教育大学）	益田亜矢子（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）
会計監査	丸山陽子（千葉ファミリー相談室）	安塚郁子（千葉市スクールカウンセラー）
	島尾永治（千葉市立緑町小学校）	吉岡秀樹（木更津市立第三中学校）

〔委員会組織〕

委員会	委員長	委 員	主な仕事
研修委員会	富樫春人	大木静子 齋藤敦子 高橋かん奈 福田修一 本間洋	研修の企画・当日の運営など。
編集委員会	荒井明子	梅澤由紀子 川島康代 小柴孝子 藤田拓哉	『学校教育臨床研究』の編集。 （日本学校教育相談学会千葉県支部と合同での発行となる予定）
准学校心理士 対応委員会	内田守	石山博幸 植草伸之 金高美津子 菅原英一 藤原和政	①准学校心理士の学校心理士への移行支援(ケース レポート作成や受験への対応)。必要に応じて教員採 用選考への支援。 ②新たに学校心理士を受験する人への支援(ケース レポート作成や受験への対応)。
海外交流委員会	片桐力	石井幸江 門永由美 桑田美和 張愛子	海外（主に東アジア圏）のスクールカウンセリング 事情の視察や関係機関との交流など。

〔事務局〕

事務局長	事務局員	主な仕事
浅見光子	高梨智子 武富教子 樽木靖夫 長野季子 益田亜矢子 丸山陽子 安塚郁子	支部の事務一切。 （会費管理、名簿管理、ホームページ運営、各種印 刷、郵送他）

6 会則改正について(案)

新	旧
第5条（会員） 本会の会員は、<u>千葉県内に在住または勤務する学校心理士で、日本学校心理士会千葉支部会費を納入した者、及び常任幹事会で認められた者とする。</u> <u>また、千葉県内に在住または勤務する准学校心理士を準会員とし、準会員においては会費の納入を免除する。</u>	第5条（会員） 本会の会員は、<u>学校心理士及び准学校心理士で、千葉県内に在住または勤務する者で、日本学校心理士会千葉支部会費を納入した者、及び役員会で認められた者とする。</u>
第9条（総会・意見の集約） ③災害等の発生により総会が開催できない場合は、<u>幹事会</u>での審議、決定をこれに代える。	第9条（総会・意見の集約） ③災害等の発生により総会が開催できない場合は、<u>役員会</u>での審議、決定をこれに代える。
第10条（役員会） <u>役員会は、常任幹事会並びに幹事会とする。それぞれ、支部長、副支部長を含んで構成し、次の役割を担う。</u> ①<u>常任幹事会</u>は諸事業に必要な会務を行う。 ②<u>役員会の決定</u>については、出席者の承認により決定する。 ③本則に定めのない事項については、<u>常任幹事会</u>に委任する。 ④第9条③の場合は、<u>幹事会がこれを行なう。</u>	第10条（役員会） ①諸事業に必要な会務を行う。 ②役員会は出席者の承認により決定する。 ③本則に定めのない事項については、<u>役員会</u>に委任する。
付則 1.この会則は平成11年4月1日より施行する。 2.平成28年3月14日改正 3.令和3年9月5日改正 <u>4.令和4年9月11日改正</u>	付則 1.この会則は平成11年4月1日より施行する。 2.平成28年3月14日改正 3.令和3年9月5日改正

日本学校心理士会千葉支部会則（改正後）

第1条（名称）

本会は「日本学校心理士会千葉支部」という。

第2条（事務局）

本会の事務局は当分の間、さくら教育研究所(千葉市中央区新宿2-12-1-303)に置く。

第3条（目的）

本会は学校心理士及び准学校心理士の交流、研修、広報、地位の向上を図る。

第4条（事業）

本会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

- ①専門職としての識見・技能を高めるための研修の実施
- ②会員相互の親睦と情報の交換・提供
- ③その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第5条（会員）

本会の会員は、千葉県内に在住または勤務する学校心理士で、日本学校心理士会千葉支部会費を納入した者、及び役員会で認められた者とする。

また、千葉県内に在住または勤務する准学校心理士を準会員とし、準会員においては会費の納入を免除する。

第6条（役員）

本会に次の役員を置く。

- ①支部長 1名 ②副支部長 若干名 ③常任幹事 若干名
- ④幹事 若干名 ⑤会計監査 2名 ⑥事務局長 1名

第7条（役員の任期）

全ての役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

第8条（役員の選出方法）

各役員の選出方法は次のようにする。

- ①幹事は、会員の互選により選出する。
- ②常任幹事・事務局長は、幹事の互選により選出する。
- ③支部長・副支部長は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。
- ④会計監査は、支部長が幹事以外の人から推薦し、総会の承認を得る。

第9条（総会、意見の集約）

- ①総会は、年1回以上開催し、必要な事項を審議、決定する。
- ②総会及び各種の決定については、出席者の承認により決定する。
- ③災害等の発生により総会が開催できない場合は、幹事会での審議、決定をこれに代える。

第10条（役員会）

役員会は、常任幹事会並びに幹事会とする。それぞれ、支部長、副支部長を含んで構成し、次の役割を担う。

- ①常任幹事会は諸事業に必要な会務を行う。
- ②役員会の決定については、出席者の承認により決定する。
- ③本則に定めのない事項については、常任幹事会に委任する。
- ④第9条③の場合は、幹事会がこれを行なう。

第11条（会計）

本会運営の経費は、本会則第5条により納入された会費、本部より還元されたもの、及びその他をもって充当する。詳細は別途定める。

第12条（会則変更）

この会則の変更は、役員会の決定と総会の承認によって行うことができる。

付則

1. この会則は平成11年4月1日より施行する。
2. 平成28年3月14日改正
3. 令和3年9月5日改正
4. 令和4年9月11日改正

別記

- (1) 平成13年8月25日に年会費について修正。
 - ①年2,000円から1,000円に減額
 - ②年度途中で学校心理士の資格を得たものの会費は、その年度からとする。ただし、3月の場合は、翌年度からとする。
- (2) 平成22年3月25日に年会費について修正。
 - ①年1,000円から500円に減額
 - ②年度途中で学校心理士の資格を得たものの会費は、その年度からとする。ただし、3月の場合は、翌年度からとする。
- (3) 令和3年9月5日に年会費について修正
 - ①年500円から1,000円に増額
 - ②年会費は2年ごとに納入。奇数年度に銀行振り込みにより2,000円を納入する。
 - ③途中入会の場合は、翌年度会費から納入する。途中退会の場合は返金をしない。

2022 年 9 月 11 日
日本学校心理士会千葉支部
研修委員長 富樫春人

新規企画「研究発表会」の提案

1 現状

現在の千葉支部の研修会は、講演会を基軸とするインプット中心型である。

2 目的

アウトプットによる学びの機会を増やすため、千葉支部として会員の日頃の研究および実践活動の発表の場を設けたい。

3 内容

- (1) 名 称：「日本学校心理士会千葉支部第 1 回研究発表会」
- (2) 日 時：2023（令和 5）年 2 月 5 日（日）午前（予定）
（「日本学校教育相談学会千葉県支部研究発表会」と合同開催を予定）
- (3) 場 所：東京情報大学
- (4) 開催方法：対面・オンライン・ハイブリッドのいずれかを予定
- (5) 発表資格：発表時点で日本学校心理士会千葉支部会員であること
（連名発表可。ただし、発表者は支部会員であること）
- (6) 内 容：①発表時間（20～30 分）
②質疑応答（10 分程度）
③コメンテーターからのコメント（10 分程度）

4 スケジュール

- (1) 9 月 11 日：総会で提案（承認された場合（2）以降へ）
- (2) 支部会員宛てに募集案内を送付
- (3) 発表希望者は、氏名・所属・発表のテーマ（仮題可）を添え、メールで応募
- (4) 応募締切：2022 年 12 月 4 日（日）
- (5) 応募多数の場合は、日本学校教育相談学会千葉県支部と相談し、発表者を決定
- (6) 発表者決定後、それぞれの発表の座長とコメンテーターを依頼（～12 月下旬）

2022年度論文募集のお知らせ

日本学校心理士会千葉支部編集委員会

今年度より日本学校教育相談学会千葉県支部と共同で会誌『学校教育臨床研究』を作成いたします。つきましては発行に向けて論文を募集いたします。会員の皆様の日頃の研究・実践をぜひ発表していただけだと思います。投稿規定は以下の通りです。どうぞ奮ってご応募ください。

『学校教育臨床研究』投稿規定

(原稿について)

1. 原稿はA4 縦置き・横書き, 1枚を40字×40行×10枚程度とし, 字体はMS明朝, フォントは10.5ポイントとする。また, 算用数字は半角とする。
2. 原稿は, 表題, 副題(なくても良い), 所属名と氏名の順に記載し, 1行あけて書き始める。
3. 投稿論文は, 学校教育臨床に関する内容とし, 上限10枚以内(注記, 引用文献, 参考文献, 図表を含む)におさめる。ただし, 編集委員会において認める場合はこの限りではない。
4. 論文の文体は「である」調とし, 常用漢字, 現代かなづかいを用いる。
5. 注記, 参考文献, 引用文献は全体で8件以上(実践報告スタイルは3件以上)とし, 一括して「文献」として本文の後ろにまとめて掲載し, 文献の著者名のアルファベット順に並列する。文献の年号は初版の刊行年(西暦)とする。表記は以下の例示による。
 - ・単著本の場合 千葉太郎「本タイトル」〇〇出版 2016 pp.95-96
 - ・論文の場合 千葉次郎「論文タイトル」『研究誌タイトル』No.24 2015 pp.95-96
6. 投稿者は投稿論文で紹介する事例における関係者のプライバシーの保護に十分配慮し, 投稿の同意を得たことが分かるように明記する。

(投稿について)

1. 筆頭著者は日本学校心理士会千葉支部会員もしくは日本学校教育相談学会千葉県支部会員であること。
2. 投稿論文は編集委員会が審査し, 掲載を決定し, 投稿者に連絡をする。
3. 投稿論文は本学会の学会誌, 他学会の学会誌への掲載論文は不可とする。
4. 投稿論文は「連絡票」「抄録」「本文」の順に並べ, 各頁に通し番号を入れたもの1部を送付する。また, これらを保存した記憶媒体(CD/USB等)を送付する。※投稿一式の返却はしないものとする。
 - ・「連絡票」は所定の枚数とは別に論文タイトル, 執筆者氏名, 支部会員番号, 所属機関と職名, 連絡先住所, 電話番号とメールアドレスを1枚にまとめる。
 - ・「論文抄録」は所定の枚数とは別に日本語による400字程度を1枚にまとめる。
5. 表記の統一・整理及び校正は, 特に申し出のない限り編集委員会において行う。
6. 投稿の締切は毎年12月末日(消印有効)。発行は翌年6月の予定。
7. 投稿についての送付先は編集委員長とする。

送付の際に表に「学校教育臨床研究 投稿原稿在中」と朱書きすること。

(送付先)

〒276-0003 千葉県八千代市大学町1-1

秀明大学 学校教師学部 荒井明子

令和4年9月11日

准学校心理士対応委員会活動について

准学校心理士対応委員会
委員長 内田 守

1. ホームページについて

9月の総会後に「准学校心理士対応委員会ページ」を千葉県支部ホームページ上に設置する。

2. 研修について

准学校心理士対応委員会独自の研修としてどのような内容が必要なのか、今年度中に、准学校心理士の方々が望む研修内容をリサーチし、次年度から実施できるように準備していく。准学校心理士の千葉県支部研修会への参加を促し、参加状態も把握するとともにリサーチの機会とする。

3. スーパーバイズについて

今後、准学校心理士の方々が学校心理士資格認定を受験する際、「ケースレポート作成のためのスーパーバイズ」を、准学校心理士対応委員会以外の方にもお願いする場合がある。ぜひご協力をお願いしたい。

スーパーバイズの周知については、ホームページや一斉メールや研修の機会を通して行っていく、依頼申請については、ホームページの「問い合わせフォーム」から行ってもらおう。